

不登校対応 キーワードは 「アセスメント」と「連携」

- ケース会・不登校対策委員会の開催
（校長・教頭・教務・生徒指導・養護教諭・特別支援コーディネーター・担任）
- SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）、山元町
ケアハウス等、外部機関と連携して対応策を検討
- 生徒指導の構造「2軸3類4層」を用いた共通理解の推進
- 「山元町不登校児童生徒対応スタンダード」の作成・活用と
確実な「引継ぎ」

<運営例>

- 各学年（担当）から報告（出欠状況、生活面等）
⇒（継続）改善・課題等、（新規）支援計画
- 質疑（可能ならSCやSSWも入って）
- 今後の目標、対応について共通理解、次回予定
- SSWからの助言（参加しているとき）

<支援例>

- （段階1）1日欠／2週；家庭と連絡を取り合い状況確認及び対策を検討
- （段階2）1日欠／週；家庭訪問（不安・要望）、信頼関係、ケース会
- （段階3）7日欠／月；家庭訪問、教育相談、支援計画（SC、SSWと連携）
- （段階4）ほとんど欠；レベル3に加えて、外部関係機関（心のケアハ
ウス）と連携し、情報共有と対応策の検討

いじめ防止

○小さな変化を見逃さない

- ・授業や休み時間の子どもの表情や態度
- ・毎月の生活アンケートによる点検
- ・Q-Uテストを活用した学級経営改善と個別対応
- ・教育相談の活用（二者面談）
- 児童生徒会による取組
 - ・いじめ防止CMコンクールへの取組
 - ・いじめ防止標語コンクール
の開催

関係機関とその連絡先

- ・SSW＝教育総務課
（窓口；各校の教頭先生）
- ・山元町ケアハウスMIRAI
（窓口；各校の教頭先生）

各校生徒指導担当者で、これらの取組を検証し、より適切な取組に向けて改善を図っていきます。

行きたくなる学校づくり

「分かる授業」
「できる授業」
を創る

「児童生徒主体の
活動」を創る

「安心できる
居場所」を創る

児童生徒主体の活動

<各校実践例>

- 児童生徒会によるスローガンと啓発
- 児童生徒会のめあての呼び掛け
- いじめ防止標語コンクール、CM制作
- 児童生徒による挨拶運動
- 一人一役制（学校・学年行事）
- 行事ごとに全体目標・個人目標の設定と振り返り（自己決定・自己存在感・共感的人間関係の育成）
- 自分の意見表明の場を設定（達成感・成就感）
- 友達の良い所を探し伝える場を帰りの
会等で設定
- 「3つの約束」の活用
（子どもサミットへの取組）
- 教員間での情報交換（共通理解）
- 相談活動の実施（児童生徒と、保護
者と）

分かる授業

<各校実践例>

- 指導力の向上…（授業改善の取組）
 - ・「主体的・対話的で深い学び」への取組
 - ・年間一人一回の授業公開（検討会）
 - ・校内・教科での共同研究の充実
 - ・ICT活用による思考力育成
- ペア・グループ学習で互いの考えを交流、ま
とめを行うことで「できた・分かった」が実感で
きる授業を組み立てる。
- 板書の工夫・教室掲示の工夫（算数コーナー）
- 自分の考えの根拠に既習事項を活用
- 学習過程に「振り返り」を入れる。
- ノートづくりの工夫（自分の考えを書く。図、
表、友達の考えを取り入れて書く。）
- 児童生徒のつまずきの把握と対応
- 学習計画立案や学習方法のアドバイスにより家
庭学習の定着を図る。
 - ・ICTを活用した家庭学習の推進
 - ・児童の家庭学習ノートの良い例をコピー掲示
- 放課後学習会、長期休業中の学習会
- 朝読書・新聞のコラムを読み感想を書く。
- 「学びの森」の活用

安心できる場所

<各校実践例>

- 道徳・学級活動でいじめ防止に関する
題材について話し合う。
（p4c活用・いじめ抑止の雰囲気醸成）
- 帰りの会等で、友達の頑張りや感謝の
気持ちを伝える場面を設定する。
- 二者面談等、教育相談を実施し、相談
事や悩みを聞く機会を設定。
- 友達の良い所を探し伝える場面を設定
する。（言葉で、メモ（掲示用）で）
- 「目指す児童・生徒像」の具体の姿を
伝え、見られた場合に賞賛する。
- 生活及び心のアンケートの活用
- 複数の教員による情報交換
- 校内での情報共有（職員会議等）
- 「p4c」の実践
 - ・自己存在感の感受
 - ・自己決定の場の提供
 - ・共感的な人間関係の育成
 - ・安心安全な風土の醸成
- Q-Uの活用
- 「つながりタイム」（二者面談）

不登校対応チェックリスト

生徒指導3類4層から

<発達支持的生徒指導・課題未然防止教育>

★温かな学級づくり（集団づくり）

一人一人の居場所がある温かな学級をつくる

- ☐ 子どもの良い所を積極的に褒めていますか。
- ☐ 一人一人の子どもに活躍の場を設定していますか。
- ☐ 自己有用感や自己存在感を育む活動を意図的に取り入れていますか。

★子ども同士や先生と子どもの絆づくり

一人一人の子どもの心をつなぎ合う取組や先生と子どもの信頼関係づくりをする

- ☐ 子ども同士で良い所を認め合う機会をつくっていますか。
- ☐ 仲間意識を育てる活動を積極的に取り入れていますか。
- ☐ 全員の子どもに声をかけていますか。

★分かる授業づくり

学ぶ意欲を育み、どの子どもも分かる授業づくりをする

- ☐ 授業のねらいや課題を明確にし、学習形態や指導体制を工夫していますか。
- ☐ どの子どもにも「分かった」「できた」という成功体験を味わわせていますか。
- ☐ 理解の不十分な子どもを見付けることができますか。

★小・中学校の連携

小学校と中学校が十分に情報交換を行うとともに、小中の交流を図る

- ☐ 小学校と中学校が互いに十分な情報交換を行っていますか。
- ☐ 体験入学等、小・中学校間の子どもたちの交流はできていますか。
- ☐ 教職員による小・中学校間の交流や連携はできていますか。

★家庭との連携

家庭との連携を密にし、学校と家庭が一体となって不登校の未然防止に努める

- ☐ 子どもの小さな頑張りを家庭に伝えていますか。
- ☐ 保護者と積極的にコミュニケーションをとっていますか。
- ☐ 家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着をどの子どもにも図っていますか。

<課題予防的生徒指導・課題早期発見対応>

★早期発見

子どもと触れ合いながら、子どもの変化を敏感につかむ

- ☐ 子どもと一緒に遊んだり、話したりする触れ合いの時間をつくっていますか。
- ☐ 子どもたちを複数の目で見たり教室以外での様子の情報を集めたりしていますか。
- ☐ 不登校の予兆チェックリストを活用するなど子どものサインを見逃さない努力をしていますか。

★教育相談の充実

子ども一人一人に寄り添うとともに、子どもが相談しやすい教育相談体制をつくる

- ☐ 子どもと信頼関係ができており、子どもは悩み等を相談してきますか。
- ☐ 子どもは、養護教諭やスクールカウンセラーにすぐに相談できるようになっていますか。
- ☐ 子どもや保護者に教育相談の窓口や電話番号を知らせていますか。

★情報の共有

担任が抱え込むことなく、他の関係職員や保護者と情報を共有する

- ☐ 養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と積極的に連携していますか。
- ☐ 気がかりな点は、すぐに管理職や学年主任、教育相談担当等に報告していますか。
- ☐ 日常生活の変化など気になることをすぐ保護者と話し合っていますか。

★早期対応

欠席状況を的確に把握し、早期に対応するとともにチームを組んで組織的に対応する（※個票や指導の記録の活用）

- ☐ 欠席を単なる欠席と捉えず、「何かあるのでは？」と意識し対応していますか。
- ☐ 欠席1日目の電話対応、欠席2～3日目の家庭訪問を心掛けていますか。
- ☐ 対応が必要な場合、すぐに支援チームを編成できる体制ができていますか。

★小1プロブレムや中1ギャップへの対応

小1プロブレムや中1ギャップを正しく理解し、全職員で計画的に対応する

- ☐ 小1プロブレムや中1ギャップを理解していますか。
- ☐ 小学校では幼稚園や保育所、中学校では小学校から十分な情報を得ていますか。

校内での取組にご活用ください。

<困難課題対応的生徒指導>

★指導体制の充実

校長、教頭を中心として全教職員で組織的に不登校対策の取組を行う

- ☐ 不登校対策のコーディネーター役を担う不登校担当の教員が位置付けられていますか。
- ☐ 教職員相互の報告、連絡、相談はできていますか。
- ☐ いつでも、チームで相談や対応ができる体制ができていますか。

★環境の整備

保健室登校や別室登校などの不登校対策のための環境整備を行う

- ☐ 不登校傾向や再登校を目指す児童生徒のために保健室の環境を整え、養護教諭の役割を全職員で共通理解していますか。
- ☐ 別室登校を希望する児童生徒のために別室で学習できる環境を整え、教室復帰の準備ができるようにしていますか。
- ☐ 不登校児童生徒や保護者に適応指導教室やフリースクール等を積極的に紹介していますか。

★不登校児童生徒や保護者との関わり

不登校児童生徒や保護者との関わりを大切にし、再登校へのきっかけをつくる

- ☐ 不登校児童生徒に学校や学級の様子を連絡し、かかわりをもち続けようとしていますか。
- ☐ 家庭訪問や電話、迎えによる再登校への促しを積極的に行っていますか。（促しを控えた方がよい場合を除く）
- ☐ 保護者との信頼関係を築き保護者と一体となって再登校に向けた取組を行っていますか。

★関係機関との連携

関係機関（児童相談所や総合教育センター、適応指導教室等）と連携を図り、子どもの再登校に向けた支援を行う

- ☐ 関係機関（児童相談所や総合教育センター、適応指導教室等）を理解していますか。
- ☐ 関係機関と積極的に連絡を取ったり、相談したりしていますか。
- ☐ 関係機関の役割等を保護者に知らせていますか。

★教職員の研修の充実

不登校について理解し、未然防止と学校復帰への指導力を身に付ける

- ☐ 「温かい学級づくり」や「分かる授業づくり」の研修はできていますか。
- ☐ 不登校の早期発見・早期対応ができる力は身に付いていますか。
- ☐ 不登校に関する研修はできていますか。
※「魅力ある学校づくり5つの視点」（宮城県教育委員会）より

山元の子どもたちのよりよい成長のために、このリーフレットを参考にし
て各校での実践にお役立てください。

今後、生徒指導担当者会では、このリーフレットを参考にした実践の結果の成果
と課題について振り返りをし、よりよい取組・成果を町内の先生方にフィードバックします。

何か、質問・意見等があれば事務局（山一小）までお問い合わせください。

（令和7年3月改訂）

山元町教育委員会

山元町小・中学校生徒指導担当者会

山元町学校教育充実事業「みのりプロジェクト」

<徳育部会>

みんなで見守り
みんなで考え
みんなで取り組む生徒指導



いきたくなる学校を目指して

いごこちのよい学級を目指して

いじめ“0”を目指して